

【令和5年度 授業改善推進プラン】

板橋区立北野小学校

【家庭】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理や裁縫などの実習に意欲的に取り組む児童が多い。反面、ガスコンロの点火、包丁を使う、針を持つ等、授業で初めて経験する児童も多い。 ・日常生活で実際に経験している児童と経験していない児童の差が大きく、技能の定着具合にはかなり個人差が見られる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科で学習した内容を自分の生活に生かしていけるような指導を工夫することが必要である。 ・家庭で使われている用具を想定した上で、ガスコンロの使い方、包丁の扱い方などについて、安全面に十分配慮した指導を充実させる必要がある。 ・コロナウイルスの感染拡大のため、グループ活動・調理実習を行なっていなかったため、5年での内容を6年でも扱うなどして、工夫して学習を進めていく。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の「生活」への興味・関心を高めるために、児童の身近にある題材や、生活課題を取り上げ、実物見本、実物の量や大きさなど具体的に提示する。(問題解決型・探究型の学習) ・家庭科では「調べる」「考える」「工夫する」「できる」を基本とし授業を構成している。児童が見通しをもって学習をすすめることができるよう、教師と児童で学習計画をたてる。そして、児童が問題意識をもち、自ら解決できる内容構成とするために、児童同士の情報や工夫を交換し合い、できる・できたという体験型学習を増やす。(問題解決型・探究型の学習)(共同学習の導入) ・実習の事前計画では、個人分担と共同分担の準備や手順を明確にし、助け合いながら各自責任をもって行動できる力をつけていく。(協同学習の導入) ・安全面については、事前に教師が示したり、ビデオや動画により映像で印象付けたりしながら徹底する。 ・学習した内容を家庭でも実践していけるよう、現状の家庭環境を踏まえて学習内容や実践課題を工夫する。 ・小学校家庭科と中学校家庭科分野との内容の系統性や連続性を踏まえ、指導計画の見直しと改善が円滑に図ることができるよう、中学校と連携をとる。(保幼小中連携)